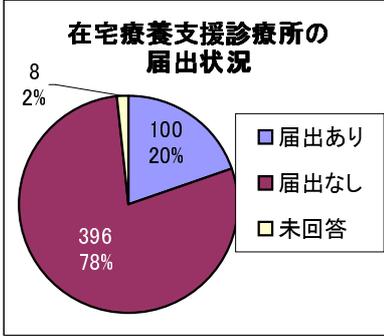
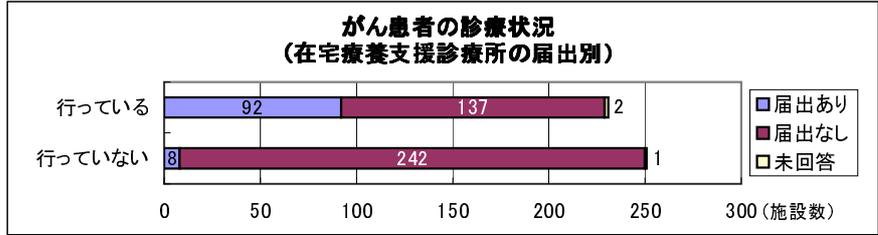


<結果概要>

●在宅療養支援診療所の届出状況



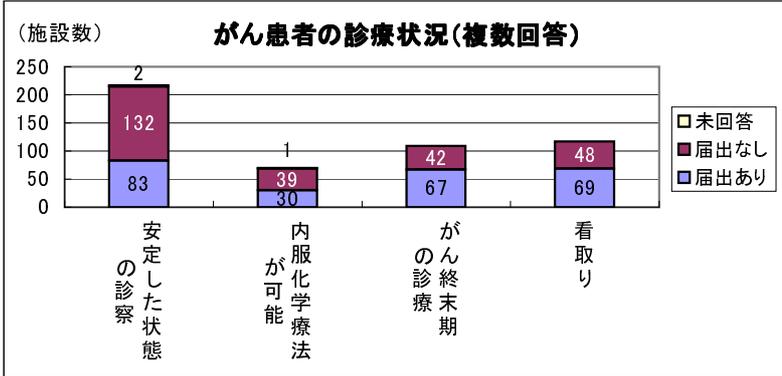
●がん患者の診療状況



がん診療を行っている施設は、504施設中231施設(46%)であった。がん診療を行っている施設のうち、在宅療養支援診療所の届出のある施設は92施設(40%)であった。

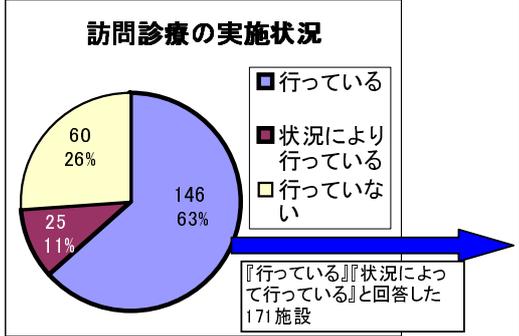
以下、がん患者の診療を行っている231施設の状況を示す。

●がん患者の診療状況

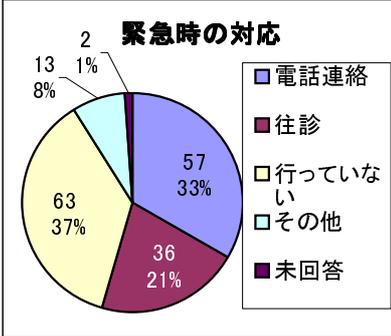


がん患者の診療を行っている231施設で、217施設(94%)が『安定した状態であればがん患者さんの診察ができる』と回答していた。『自院での内服化学療法』は70施設(30%)、『がん終末期の診療』109施設(47%)、『看取り』117施設(51%)であった。

●訪問診療の状況



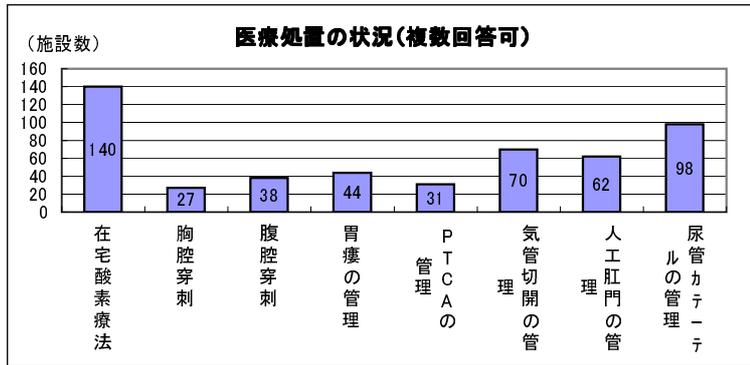
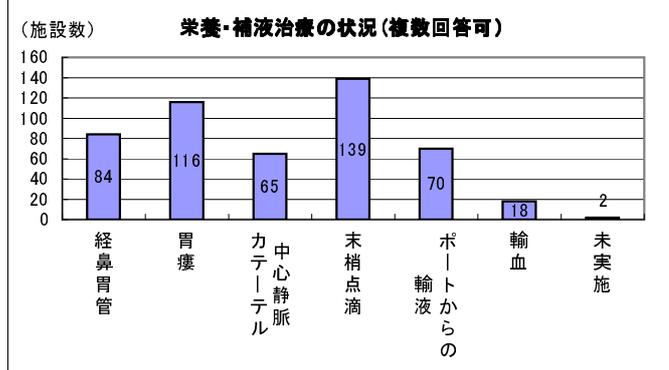
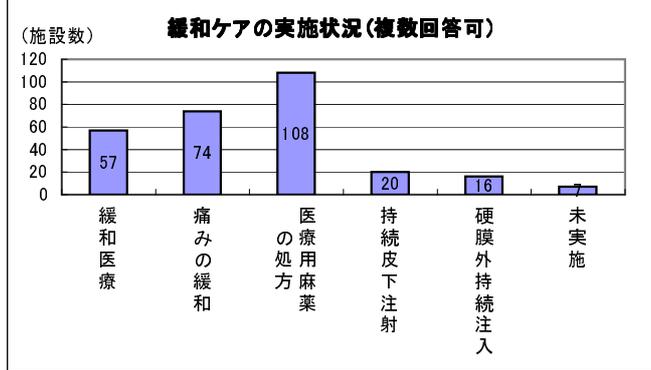
●緊急時の対応



がん診療を行っている231施設のうち、訪問診療を行っている(『状況により行う』も含む)施設は、171施設(74%)であった。171施設の緊急時の対応状況は、電話連絡、往診での対応が54%、緊急時の対応を行っていない37%であった。

以下、がん患者の診療を行っている231施設のうち訪問診療を行っている171施設の状況を示す。

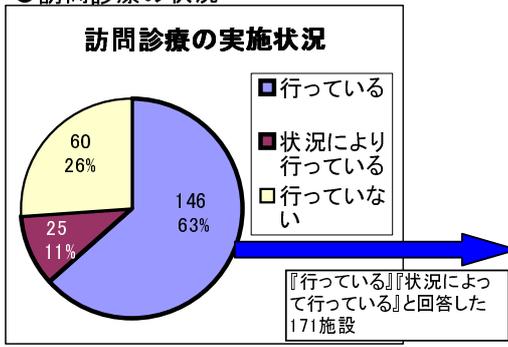
●在宅訪問診療の内容について



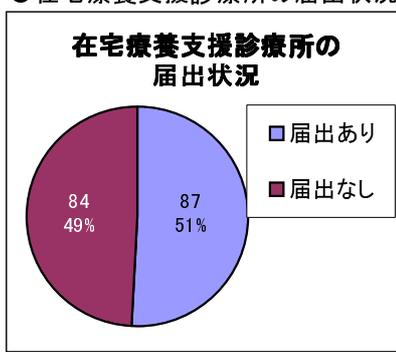
在宅訪問診療の内容として、緩和ケアでは、医療用麻薬の処方が最も多く108施設(63%)であった。栄養・補液治療では、末梢点滴139施設(81%)、胃瘻116施設(68%)、経鼻胃管84施設(49%)であった。医療処置の状況では、在宅酸素療法140施設(82%)、尿管カテーテルの管理98施設(57%)、気管切開の管理70施設(41%)であった。

<結果概要>

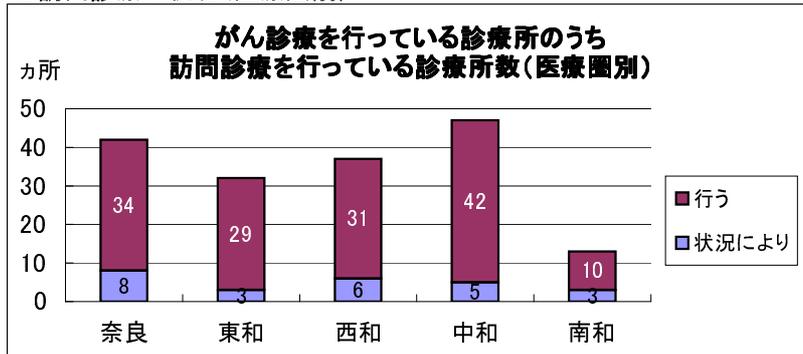
●訪問診療の状況



●在宅療養支援診療所の届出状況

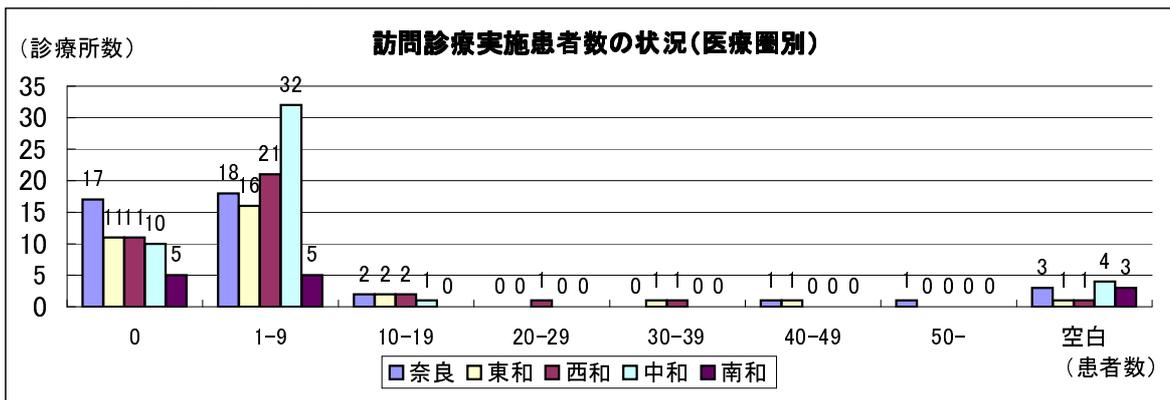


●訪問診療の状況(医療圏別)



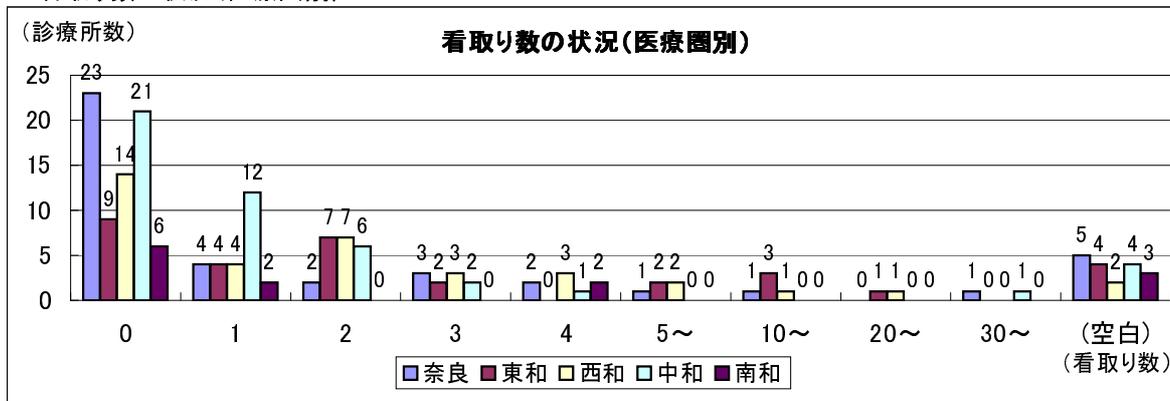
がん診療を行っている診療所231施設のうち訪問診療を行っている171施設を医療圏別に見てみると、中和医療圏が最も多く47施設(27%)、次いで奈良医療圏42施設(25%)であった。

●訪問診療実施患者数の状況(医療圏別)



訪問診療実施患者数は、実際に計画的に往診を行っていない診療所が54施設(32%)を占めていた。訪問診療実施患者数1~9名がどの医療圏でも最も多く92施設(54%)、10名以上実施している施設は13施設(8%)であった。

●看取り数の状況(医療圏別)



看取り数の状況では73施設(43%)が、看取りを実施していなかった。年間の看取り数9人までの施設が71施設(42%)、10人以上看取りを行っている施設は9施設(5%)であった。

＜結果概要＞

●がん患者の在宅訪問診療の状況について(171施設)【平成22年1月1日～12月31日】

	訪問診療 実施施設 数	在宅がん 患者診療 数	在宅看取 り数	平均在宅 診療期間 (日) <small>1施設あたり</small>	病院看取 り数	転帰不明 数	訪問看護 利用患者 数(自院)	訪問看護 利用患者 数(院外)	独居患者 数	40歳未満 患者数	救急搬送 患者数(実 人数)	救急搬送 患者数(延 べ)
奈良	42	422	250	71.5	49	19	229	176	72	27	35	44
東和	32	139	105	143	31	1	53	73	5	2	13	18
西和	37	147	88	58	41	29	70	82	21	1	24	33
中和	47	72	46	146	33	6	25	87	28	1	28	42
南和	13	14	10	186	1	0	5	15	0	0	1	1
計	171	794	499	110	155	55	382	433	126	31	101	138

平成22年の悪性新生物による死亡者数は4,046人。在宅看取り数は、499人(在宅看取り率:12%)であった。また、訪問診療を行っている患者(794名)のうち、在宅看取りは499人(63%)、病院看取りは155人(20%)であった。平均在宅診療期間は、110日/施設で、医療圏によって58日～186日とばらつきが見られた。独居患者は126人(16%)、救急搬送患者数は101人(13%)であった。